

3. ウム・ヴェルト株式会社（申請資料抜粋）

地域のプロジェクト名	食品リサイクルをコア事業とした地方創生計画
申請者(地方自治体名・団体・企業名など)	ウム・ヴェルト株式会社
1. ご当地・施設の特徴	<p>ウム・ヴェルト株式会社は、現在大手食品企業中心に日量約100トンの食品残さを回収している。それを原料として食品リサイクルループを完結するため様々な計画を立て、食品における完全循環型社会のモデル地区作りを行っている。</p> <p>食品残さの肥料となるものは農業で使用するため、2014年4月より農業法人アグリファームを設立し、ねぎの生産を開始。2017年12月には地元加須市の「かぞブランド」認定をいただいた。加須市の「ふるさと納税」の返礼品として選ばれており、学校給食等にも出荷している。その他食品取引先企業（排出事業者）からの依頼で冷凍餃子の具材としてニンニクの委託栽培等も行い、食品リサイクルループを構築している。また、農業については2018年6月に設立した障がい者就労継続支援所「さくら」のフロイデ株式会社と農福連携で農作業を行っている。</p> <p>食品残さでエサとなるものは養豚で使用。2018年12月よりアグリファームで養豚業もスタート。エサは地元の大手食品製造会社から排出された黒豆やパンを利用している。</p> <p>更に食品リサイクルループを自社で完結するために2019年4月「道の駅かぞわたらせ」の施設運営を始める。ウム・ヴェルトで回収した食品原料残さ、廃棄製品等を肥料化、飼料化し、それらを使用して育てた農作物の販売、豚肉を用いた料理の提供を行っている。</p> <p>食品リサイクルをコア事業とし、今後これらの取り組みを更に発展させた集大成として、一般の方に食品リサイクルがより身近に体験できる「食のテーマパーク」設立を目指す。</p> <p>そこでは食品リサイクルを活用した農場体験やレストラン・販売所などのサービスを提供し、観光資源のPRを積極的に行うことで地方創生につなげる。</p>
2. 地方創生に結びつく活動目標・目的などについて	<p>ウム・ヴェルトは循環型社会の実現を目指している。回収した廃棄物を再資源化し、農業や養豚業へ転用し、再び食材として市場に戻って来なければ完全な循環型社会とは言えない。本来食べられるのに廃棄されている「食品ロス」が日本では年間約500～800万トン発生している。世界で約9億人の人々が栄養不足状態にある中で、「もったいない」という言葉の発祥地である日本で食品ロス削減に向け取り組んでいく。</p> <p>全国で一番食品消費量の多い関東地方（埼玉県は食品製造全国第2位、製造段階で多くの食品残さが出る）で食品リサイクルループを同一地域で実現できる先進的な事業モデルといえる。その最終形として、食品リサイクル施設から農産物・加工肉の販売・農業体験など『食』の全てが集約されたテーマパークの設立を目指している。</p> <p>また、この事例で食品リサイクルを通じた、地方創生のモデル事業となり、この仕組みを全国に広めて行きたいと考えている。</p>

3. 地方創生に結びつく活動・実績などについて

- ① 食品スの飼料化及び肥料化：パンくずと菓子くず及び生肉くずは資源ゴミとして有価で回収し、協力工場で飼料やラードに加工してリサイクル商品化。野菜くずは蓋付きドラムで産廃として回収し、協力工場で堆肥に加工して商品化
- ② 生肥料及び飼料で野菜と養豚：2014年に農業法人を設立。長ネギ・にんにく・じゃがいも等を生産・出荷しているが使用する堆肥はほぼ100%再生堆肥。
2018年には養豚を始め、回収した大豆とパンくずを飼料として育てた豚を出荷。
- ③ 2019年4月から「道の駅かぞわたらせ」の指定管理者として加須市から受託し運営を開始。食堂ではリサイクル飼料で育てた豚肉のメニューを提供。生鮮市場ではリサイクル肥料で生産したねぎを販売。
また、渡良瀬遊水地に隣接し、歩いて5分程度の場所に三県境（埼玉、群馬、栃木の県境）があることから、三県のお土産品も一気にそろえて、加須市の地域貢献と活性化に向けた様々な魅力を、道の駅を通じて発信。
そして、2019年6月には「恋人の聖地」サテライトに選定。ハート型の渡良瀬遊水地と、加須市が鯉のぼりの産地で、「こいのぼり⇒恋昇り⇒恋愛成就」という想いも込めてデートスポットとしてもPR。農業従事者の高齢化、人口減少が進む中、若い人にこの地域の知名度を上げてもらうと共に定住してもらえる地域となることが最終的な目的。

本事業は2013年より計画し、具体的アクションは2014年4月～農業事業の展開から始まった。その後2018年には、障がい者就労継続支援事業所の設立、養豚業進出、2019年道の駅の施設運営開始と着実に実績を積んでいる。

7. 成果・注目ポイント(写真と説明文)

写真



(説明文) リサイクル肥料での農業事業

- ・リサイクル堆肥で育てた「ねぎ」は「かぞブランド」に認定され、加須市の「ふるさと納税」の返礼品としても選ばれている。
- ・加須市学校給食センターへ納品。今後、北川辺学校給食センターにも納品予定。
- ・ネギの一部は「道の駅かぞわたらせ」でも販売中。食堂の食材としても使用している。
- ・当社取引先の排出事業者である餃子製造工場へ毎年、にんにくを納品。食品リサイクルループを実現している。
- ・地元小学校から依頼を受け農業体験をサポート。リサイクル堆肥で育てたジャガイモ堀りなど地域の農業活性化に向けた取り組みに参加。

写真



(説明文) リサイクル飼料での養豚事業

- ・2021年には、破袋機を導入し「個包装」の製品菓子も袋と菓子屑を分別し、自社でエサとして給餌を開始。
- ・個包装は分別の手間がかかる為、焼却処理をせざるを得ないことが多く、可能な限り食品リサイクルを行うことで焼却しない=Co2削減に向けた脱炭素社会にも貢献。
- ・「道の駅かぞわたらせ」で食堂料理の豚肉としても提供中。
- ・さらに道の駅で出た食品残渣を養豚のエサとして利用し、自社グループ内でも<6次産業化+リサイクル>といった当社独自の「7次産業化」に向けた食品リサイクルループを完成させる重要な事業にもなっている。

写真



(説明文) 「道の駅かぞわたらせ」運営

- ・2019年、加須市より指定管理者として道の駅の運営を開始。
- ・アグリファームで生産した野菜の販売、養豚の豚肉を料理食材として提供することで、当社の食品リサイクルが価値を生み出し、認められた形にもなった。
- ・2019年には「恋人の聖地」サテライトに選定。ハート型の渡良瀬遊水地と、加須市が鯉のぼりの産地で、「こいのぼり⇒恋昇り⇒恋愛成就」という想いも込めてデートスポットとしてもPR。
- ・近くに埼玉・群馬・栃木の県境（三県境）があることから三県のお土産も一気にそろえて、加須市の地域貢献と活性化に向けた様々な魅力を発信。

写真



(説明文) 障害者就労継続支援事業

- ・2018年に障がい者就労継続支援を目的とした「フロイデ株式会社」をグループ会社に立ち上げA型就労継続支援事業所「さくら」を加須市に設立。
- ・障がい者の派遣事業や当社リサイクルセンターでの分別作業、アグリファームでの農作業にも従事。
- ・また養豚場でのエサとなる食品ロスの分別作業も行う。特にパッケージされた豆腐や厚揚げなどの中身を取り出し当社の食品リサイクルの向上に向けて活躍。
- ・今後は事業拡大に向けた「就労継続支援B型」の事業所運営も視野に入れて活動中。
- ・「農業」と「福祉」が連携・融合し、環境貢献と新たな雇用の創出に向けた取り組み。

7. 成果・注目ポイント(写真と説明文)

写真



(説明文) **東京農業大学との共同開発研究事業**

- ・ 当社の食品リサイクル事業に関連し、食品ロスエサとして食用昆虫(代替タンパク質)の養殖、製品化、販売までの共同開発研究を東京農業大学と包括契約を結び推進中。
- ・ この研究は、今後「昆虫食」が従来の家畜や飼料の代替となり、地球環境と健康・生活に有益性があることを実証するための取り組みとなっている。(既に道の駅で一部販売中)
- ・ 今後、埼玉県内での昆虫食の生産・販売・普及を目指して、「産・学・官」の連携プロジェクトを目標に展開していく。

写真



(説明文) **第18回「産業廃棄物と環境を考える全国大会」表彰状授与**

2019年11月15日、(公社)全国産業資源循環連合会主催による「第18回 産業廃棄物と環境を考える全国大会」が神戸で開催され、環境大臣表彰式典にて、ウム・ヴェルト代表取締役の小柳明雄が表彰状を授与。

写真



(説明文) **第7回「食品産業もったいない大賞」農林水産省食料産業局長賞を受賞**

「食品産業もったいない大賞」は、食品産業の発展に向け「省エネルギー・CO2削減」、「廃棄物の削減・再生利用」、「教育・普及」等の観点から、顕著な実績を挙げている食品関連事業者の取組内容を表彰するとともに、取組内容を広く周知することにより食品産業全体での地球温暖化防止・省エネルギー対策及び食品ロス削減等を促進することを目的としている。

ウム・ヴェルトグループの食品リサイクルの取り組みから、農業・養豚・福祉・道の駅の運営、地元地域(加須市)の活性化につなげる弊社独自の「6次産業化+リサイクル=7次産業化」が評価された。

写真



(説明文) **令和2年度「彩の国埼玉環境大賞」事業者部門の第一号となる大賞を受賞**

「彩の国埼玉環境大賞」は、環境保全に関する意識の醸成及び行動の促進を図るため、個人、県民団体及び事業者による他の模範となる優れた取組を表彰するもの。

事業者部門の第一号となる大賞を受賞。

7. 成果・注目ポイント(写真と説明文)

写真



(説明文)

「道の駅かぞわたらせ」が2019年には「恋人の聖地」サテライトに選定。恋人の聖地が地元住民へ広がり、2021年1月には加須市の市民活動団体「まちづくりネットワークかぞ」から「ラバーズベンチ」を寄贈していただいた。このことは「埼玉新聞」と「埼玉よみうり」にも掲載され、地元からの関心度が窺える。地元だけではなく、全国の方に来ていただけるよう有名にしていきたい。

写真

<p>1 貧困をなくそう</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■障がい者就労支援を行うフロイデ株を設立し雇用を促進 ■加須市 福祉・教育施設への発展と地域貢献の為に教材を寄贈 ■ペットボトルキャップ回収によるワクチン募金 		
<p>2 飢餓をゼロに</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■食品ロスを使用したリサイクル飼料による養豚業を運営 ■海外の原料を利用した配合飼料に頼らず世界の食料配分の均衡化を目指す ■世界の食糧難対策に向けた昆虫食を研究(東京農業大学と提携) 		
<p>3 すべての人に健康と福祉を</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■加須市 福祉施設へ車両寄贈 ■遺伝子組み換えではない安全な飼料で養豚業 ■生活困窮者への支援⇒フロイデ就労支援による障がい者への職場の提供 		
<p>4 質の高い教育をみんなに</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■加須市 福祉施設・教育施設への発展と地域貢献のために寄贈 ■障がい者への就労支援を目的とした現場作業研修 		

7. 成果・注目ポイント(写真と説明文)

写真

<p>5 ジェンダー平等を 実現しよう</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ■女性社員の積極的な雇用 ■産休・育休制度の取組 ■妊娠・育児者の時短勤務 ■誕生日休暇制度の導入 ■女性管理職比率を向上化 ■多様な働き方実践企業認定 ■海外留学生の雇用 		
<p>6 安全な水とトイレ を世界中に</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ■地域貢献を目的とした公共トイレの設立 ■リサイクル工場で発生した汚水を排水処理施設で微生物分解、基準値に則した水質に改善し河川放流 		
<p>7 エネルギーをみんなに そしてグリーンに</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ■食品ロスの処理で焼却せず、飼料・堆肥・バイオマス発電で再利用する食品リサイクル提案 ■食品工場の汚れた廃プラスチック類を燃料化リサイクル ■飲料容器リサイクルで発生したビニール袋を洗浄・チップ化し有価物として売却 		
<p>8 働きがいも 経済成長も</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ■産休・育休制度の取組(産休取得率100%) ■妊娠・育児者の時短勤務 ■多様な働き方実践企業認定 ■フロイデ就労支援による障がい者への職場の提供 		
<p>9 産業と技術革新の 基盤をつくろう</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ■ソーラーパネル(太陽光発電)リサイクル工場の設立 ■養豚業の飼料の有効活用(新たな食品ロス飼料の模索) ■蛍光灯の水銀を熱回収する独自のリサイクル方法 ■計量器付き車両導入のルート回収で適正計量・コストダウン 		
<p>10 人や国の不平等 をなくそう</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ■フロイデ就労支援による障がい者への職場の提供 ■簡易作業によるシルバー人材の雇用(高齢者雇用) ■外国人労働者の雇用促進 		
<p>11 住み続けられる まちづくりを</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ■道の駅の運営(地域活性化) ■焼却しないリサイクル提案のサービスでCO2削減 ■本社を加須市北川辺地区に設置し社宅も完備 地元住民・遠方地域からの雇用を促進 		

→都市部一極集中化を避ける

7. 成果・注目ポイント(写真と説明文)

写真



- 養豚による飼料リサイクル
→道の駅の食品ロスを飼料へ
→育てた豚肉を道の駅で使用
- 自社独自の蛍光灯リサイクル
→蛍光灯販売サービスも実施
- 飲料容器リサイクル
→自動販売機のベンダー事業
→自販機ゴミも自社リサイクル



- 脱焼却を推奨した食品リサイクル、
廃プラのリサイクルでCO2削減
(温室効果ガス削減)
- グリーンカーテンの設置
- 自然災害時のリスクヘッジとして
車両・配車機能の分散化



- 廃プラスチックのリサイクル
→海洋プラスチック問題の解消
- 排水処理による水質保全
- 養殖魚のエサを目的とした
食品リサイクルの提案



- 世界自然機構基金ジャパン
(WWFジャパン) 募金活動
- アグリファーム株式会社での
農業・養豚業への取り組み
- 加須市北川辺地区での花植え
ボランティア活動の参加



- 障がい者への就労支援を目的とした
現場作業研修・職場提供



- 道の駅指定管理者として運営
→加須市・地元農家との連携
- 食品ロスでの昆虫食養殖研究
→東京農業大学との共同研究
→道の駅での昆虫食の販売
→障がい者による昆虫養殖運営



(説明文)

本業以外の事業から波及したそれぞれの取り組みがSDGsに関連し、17項目すべてに当てはまる活動に繋がっている。